

一 ^{が し ぎ どうじょう} 我始坐道場 ^{かんじゆやつきょうぎょう} 觀樹亦經行の事

仰せに云はく、此の文は教主釈尊三十成道の時を説き玉へり。觀樹の樹と云ふは十二因縁の事なり。所詮十二因縁を觀じて經行すと説き玉へり。十二因縁は法界の異名なり。又法華經の異名なり。其の故は樹木は枝葉華菓あり。是即ち生住異滅^{しょうじゅういめつ}の四相なり。大覺世尊十二因縁の流轉^{るてん}を觀じ、經行し給へり。所詮末法当今も、一切衆生の法華經を謗じて流轉すべきを觀じて、日本国を日蓮經行して南無妙法蓮華經と弘通する事、又々此くの如くなり。法華經の行者は悉く道場に坐したる人なり云云。